

# 道德教育全国調査の実施（2019.3）と結果分析（1） —統計的分析—

- 押谷由夫(武庫川女子大学大学院・教授)
- 木崎ちのぶ(武庫川女子大学大学院・院生)
- 谷山優子(武庫川女子大学大学院・院生)
- 矢作信行(武庫川女子大学大学院・院生)
- 齋藤道子(武庫川女子大学大学院・院生)
- 小山久子（大阪芸術大学・特任教授）
- 醍醐身奈（目白大学・専任講師）

## 1. 研究の動機

文部科学省は、新教育課程に先駆け、道德教育の抜本的改善・充実に取り組んでいる。その中核に「特別の教科 道德」の設置があり、小学校では昨年度から、中学校では今年度から全面実施されている。学校現場では、その対応に様々に取り組んでいるが、このような道德教育改革にどのような意識をもっているのだろうか。行政的取組みは、学校現場に強制されるという意識をもたれがちである。どのような行政的取組みでも、学校教育をより充実させるためのものであり、そのことにかかわって慎重に検討して決定される。しかし、どれだけ慎重に検討されたものであっても、それを実行する側の捉え方が、やらされるといった受動的認識であれば、効果は期待できない。

そこで、新しい道德教育への移行期にあるこの時期に、学校現場の教師の意見や具体的取組について調査し、教師がその意義を理解し、各学校が主体的に取り組む、意図される効果を上げられるようにするための対策を行うことが求められる。

## 2. 本研究の目的と方法

本研究チームでは、小学校、中学校で「特別の教科 道德」の設置が決定し、小学校で全面実施に入る前の2018年3月時点において、学校現場の状況を把握すべく、第1次の全国調査を行い、学校現場の教師の意識と実際の取組み等について分析した。今回は、2019年3月時点において、調査対象を同じ学校として、どのような取組がなされ、どのような意識の変化や取組の変化が見られるかを明らかにし分析する。そして、その結果を基に、学校現場の教職員がより主体的、意欲的に道德教育改善・充実に取り組んでいただけるようにするための提案を行うことを目的とする。

## 3. 調査の方法

昨年度行った調査においては、調査対象校の選定は『全国学校総覧 2017年度』（原書房）より、全国47都道府県の全部の小学校・中学校から、およそ1割の学校を無作為に抽出し、アンケート用紙を送付するという方法を取った。今年度も、昨年度対象とした学校をそのまま調査対象校とした。

発送学校数は、3,336校。回収学校数は、1,004校。回収率は、30.1%。  
学校種別および地域別のサンプルは表の通りである。

#### 学校の種類

全体	小学校	中学校	小、中一貫校	不明
1004	633	352	18	1
100.0	63.0	35.1	1.8	0.1

#### 学校の地域

全体	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	不明
1004	175	225	62	29	103	154	84	47	125	0
100.0	17.4	22.4	6.2	2.9	10.3	15.3	8.4	4.7	12.5	0.0

#### 回答者の職階

全体	校長	副校長（教頭） （道徳主任）	道徳教育推進教師	教務主任、研究主	それら以外	不明
1004	104	189	598	85	27	1
100.0	10.4	18.8	59.6	8.5	2.7	0.1

#### 回答者の年齢

全体	29歳以下	30～34歳	35～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61歳以上	不明
1004	56	92	131	132	165	224	182	20	2
100.0	5.6	9.2	13.0	13.1	16.4	22.3	18.1	2.0	0.2

### 4. 調査の内容

大きく次のような内容について尋ねている。

- 1 学校教育全体で取り組む道徳教育について
- 2 「特別の教科 道徳」（道徳の時間）の年間指導計画について
- 3 道徳の授業について
- 4 自分の勤める学校の先生方の道徳教育に対する様子について
- 5 回答いただいた教師の道徳教育に関する意識について
- 6 具体的要望について
- 7 自由記述  
(道徳教育の充実に関して、ぜひ伝えたいことや、要望、意見などについて)

(小学校のみ)

- 1 教科書を使うようになって、道徳の授業はしやすくなったか
- 2 教科書を活用した程度について
- 3 「特別の教科 道徳」の評価について

## 5. 調査の結果と分析

### 1. 各校の道徳教育への対応

#### (1) 道徳教育推進教師の特徴

推進教師は、「ベテラン」と「中堅」の教師が85%を占める。これは昨年と同様であった。地域別では、「北海道・東北」が92%と高い。「近畿」は若手教師が19%で、他地域より高い。

表1

道徳教育推進教師（道徳主任）はどのような先生がなられていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人以下	701人以上	北海道・東北	関東・甲信越	北陸・中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ベテランの先生	357 36%	248 39%	109 31%	98 43%	50 38%	78 45%	101 36%	47 36%	51 33%	50 38%	38 31%
中堅の先生	480 49%	298 47%	182 52%	93 41%	65 50%	82 47%	142 50%	62 47%	74 48%	59 45%	71 57%
若手の先生	143 15%	83 13%	60 17%	37 16%	16 12%	15 9%	40 14%	23 17%	29 19%	22 17%	15 12%
合計	980	629	351	228	131	175	283	132	154	131	124

#### (2) 道徳教育を重視している学校の割合

学校経営において9割の学校が道徳教育を重視しているが、小学校は95%に対し中学校が84%と開きがある。小規模校（「200人以下」）も大規模校（「701人以上」）もほぼ同じ9割前後であるが、小規模校の方が重視されている。地域別でみると、「中国・四国」が95%となり、昨年度の85%から10%伸びている。

表2

学校経営において道徳教育が重視されていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人以下	701人以上	北海道・東北	関東・甲信越	北陸・中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
重視されている	372 38%	284 45%	88 25%	94 41%	46 35%	73 42%	107 37%	44 33%	53 34%	51 39%	49 40%
まあまあ重視されている	521 53%	315 50%	206 59%	113 50%	70 53%	89 51%	151 53%	71 54%	83 54%	73 56%	64 52%
あまり重視されていない	85 9%	32 5%	53 15%	19 8%	15 11%	12 7%	28 10%	17 13%	18 12%	7 5%	7 6%
重視されていない	5 1%	0 0%	5 1%	2 1%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 3%
合計	983	631	352	228	132	175	286	132	154	131	124

#### (3) 道徳教育を推進させるための組織をつくっている割合

道徳教育推進のための組織を作っているのは65%で、昨年度と同様である。大規模校（「701名以上」）の組織づくりの方が進んでおり、小規模校（「200人以下」）との差は21%となっている。小規模校が、52%にとどまっているのは、教員が少ないので必然的に学校全体で取り組む体制をとっているとも考えられる。そうすると、地域別で「北海道・東北」や「中国・四国」での組織づくりが低いのは、小規模校が多いことが原因とも考えられる。

表3

学校全体で道徳教育を推進するための組織を作っていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
前から作っている	564 59%	359 59%	205 60%	102 46%	88 67%	95 55%	182 66%	58 46%	110 73%	58 46%	70 58%
今年度から作った	59 6%	32 5%	27 8%	14 6%	8 6%	8 5%	20 7%	13 10%	8 5%	9 7%	6 5%
作っていない	332 35%	220 36%	112 33%	104 47%	35 27%	70 41%	75 27%	54 43%	32 21%	60 47%	45 37%
合計	955	611	344	220	131	173	277	125	150	127	121

## 2. 全体計画について

### (1) 全体計画に書かれている内容

「近隣の学校や幼児教育施設との連携」や「道徳教育の研修計画」が道徳教育の全体計画の中に「入っていない」が全体で4～5割ある。これは、昨年度も4割くらい「入っていない」と回答があった。全体計画に書かれていないからやっていないというわけではないと思えるが、特に「道徳の研修計画」はこれからより重視されるカリキュラムマネジメントの観点からも、早急に作成し全体計画に明記し実施する必要がある。

表4

全体計画に入れている内容

	回 答								
	具体的に入れている			基本方針として入れている			入っていない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 子どもたち一人一人への心の安定や道徳的対応について	249 26%	161 26%	88 25%	521 53%	323 52%	198 57%	207 21%	143 23%	64 18%
2. 環境の整備について	240 25%	169 27%	71 20%	483 49%	308 49%	175 50%	258 26%	154 24%	104 30%
3. 学級における道徳教育の取り組みについて	443 45%	305 48%	138 39%	436 44%	265 42%	171 49%	105 11%	62 10%	43 12%
4. 近接の学校や幼児教育施設との連携について	162 17%	123 20%	39 11%	346 35%	235 37%	111 32%	475 48%	274 43%	201 57%
5. 道徳教育の研修計画について	274 28%	188 30%	86 25%	357 36%	217 34%	140 40%	349 36%	227 36%	122 35%

### (2) 全体計画に書かれている内容の達成度

全体計画に書かれている内容がそれぞれの教育活動の中でどの程度達成されていると評価できるかについてみると、「だいたい達成されている」「まあまあ達成されている」の回答が高い。各教科や、特別活動、総合的な学習の時間などにおける道徳教育も同様に高くなっている。

「あまり達成されていない」の回答で特に課題があるのは、「家庭との連携」と「地域との連携」である。いずれも中学校の方が高く「見直しが必要である」とも回答している。この課題に対してどのような対応が求められるか。次に表6で確認したい。

表5

全体計画に書かれていることがどの程度達成されていると評価できるでしょうか

	回 答														
	だいたい達成されている			まあまあ達成されている			あまり達成されていない			見直しが必要である			全体計画に示していない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 道徳の時間（「特別の教科 道徳」）の指導	442 45%	336 53%	106 30%	438 45%	265 42%	173 49%	59 6%	20 3%	39 11%	28 3%	6 1%	22 6%	15 2%	5 1%	10 3%
2. 各学年の道徳教育	356 36%	263 42%	93 27%	518 53%	325 51%	193 55%	67 7%	29 5%	38 11%	24 2%	4 1%	20 6%	19 2%	12 2%	7 2%
3. 各学年の道徳教育	339 35%	248 39%	91 26%	510 52%	326 52%	184 53%	65 7%	27 4%	38 11%	26 3%	9 1%	17 5%	42 4%	22 4%	20 6%
4. 各教科の特質に応じた道徳教育	127 13%	96 15%	31 9%	526 54%	383 61%	143 41%	253 26%	126 20%	127 36%	52 5%	18 3%	34 10%	26 3%	10 2%	16 5%
5. 特別活動における道徳教育	160 16%	115 18%	45 13%	571 58%	387 61%	184 52%	180 18%	100 16%	80 23%	55 6%	19 3%	36 10%	18 2%	12 2%	6 2%
6. 総合的な学習の時間における道徳教育	124 13%	83 13%	41 12%	547 56%	381 60%	166 47%	230 23%	131 21%	99 28%	59 6%	24 4%	35 10%	23 2%	14 2%	9 3%
7. 日常生活における道徳教育	234 24%	169 27%	65 19%	581 59%	381 60%	200 57%	107 11%	56 9%	51 15%	32 3%	7 1%	25 7%	30 3%	20 3%	10 3%
8. 家庭との連携による道徳教育	106 11%	85 13%	21 6%	443 45%	313 50%	130 37%	302 31%	174 28%	128 37%	84 9%	33 5%	51 15%	48 5%	27 4%	21 6%
9. 地域との連携による道徳教育	98 10%	78 12%	20 6%	379 39%	260 41%	119 34%	328 33%	204 32%	124 35%	111 11%	53 8%	58 17%	68 7%	38 6%	30 9%
10. 重点目標の指導	266 27%	207 33%	59 17%	542 55%	356 57%	186 53%	115 12%	46 7%	69 20%	40 4%	13 2%	27 8%	16 2%	8 1%	8 2%

### (3) 家庭や地域連携の効果

家庭や地域との連携についてみていくと、「家庭への学校だよりの配布」が97%の学校で行っており92%の学校で効果的と答えている。学校規模による違いはあまり見られない。地域や家庭との連携に関する取組はほとんどの学校が効果的であったと答えている。「保護者や地域の人たちに協力いただく授業」は昨年度の73%から87%になり14ポイント上がっている。道徳授業の地域公開も86%の学校で取り組んでおり、75%の学校で効果的であると答えている。

表6

家庭や地域との連携について

	回 答																			
	効果的である					あまり効果があるとは思えない					見直しが必要である					行っていない				
	全体	200人 以下	201人 ～ 500人	501人 ～ 700人	701人 以上	全体	200人 以下	201人 ～ 500人	501人 ～ 700人	701人 以上	全体	200人 以下	201人 ～ 500人	501人 ～ 700人	701人 以上	全体	200人 以下	201人 ～ 500人	501人 ～ 700人	701人 以上
1. 家庭への学校だよりの配布	917 92%	213 94%	400 90%	178 92%	126 96%	45 5%	8 4%	25 6%	9 5%	3 2%	7 1%	1 0%	4 1%	2 1%	0 0%	28 3%	5 2%	15 3%	5 3%	3 2%
2. 地域への学校だよりの配布	796 80%	193 85%	346 78%	151 78%	106 80%	80 8%	13 6%	38 9%	19 10%	10 8%	9 1%	3 1%	3 2%	3 0%	113 11%	19 8%	56 13%	21 11%	17 13%	
3. 地域の人たちも参加 いただく催し	848 85%	203 89%	369 84%	157 81%	119 90%	64 6%	17 8%	26 6%	17 9%	4 3%	10 1%	1 0%	5 1%	3 2%	1 1%	75 8%	7 3%	42 10%	17 9%	9 7%
4. 保護者や地域の人た ちに協力いただく授業	868 87%	203 89%	385 87%	160 83%	120 90%	44 4%	10 4%	17 4%	12 6%	5 4%	12 1%	2 1%	6 2%	3 2%	1 1%	74 7%	13 6%	35 8%	19 10%	7 5%
5. 保護者や地域の人た ちと一緒に話し合える	795 80%	192 84%	356 80%	144 75%	103 77%	72 7%	11 5%	32 7%	19 10%	10 8%	17 2%	1 0%	5 1%	8 4%	3 2%	114 11%	24 11%	51 12%	22 11%	17 13%
6. 道徳授業の地域の人 たちの公開	748 75%	178 78%	334 75%	140 72%	96 72%	94 9%	19 8%	45 10%	20 10%	10 8%	14 1%	4 2%	2 1%	5 3%	3 2%	143 14%	27 12%	63 14%	29 15%	24 18%

### (4) 全体計画の変更の度合い（昨年ものに対して）

本調査で尋ねているのは2018年度の実態であり、「特別の教科 道徳」が小学校で全面実施され、中学校では来年度からというときである。そこで、今年度の全体計画をどの程度変更したかについて小学校と中学校を比較してみると、「大幅に変えている」「ある程度変えている」が小学校67%、中学校56%であった。小学校では7割近い学校が変えているが、中学校も新しい道徳教育に合わせて改善を図っているとみることができる。

表7

今年度の全体計画はどの程度変更しましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
大幅に変えている	117 13%	82 14%	35 11%
ある程度は変えている	466 50%	317 53%	149 45%
あまり変えていない	308 33%	186 31%	122 37%
変えていない	36 4%	12 2%	24 7%
合計	927	597	330

(5) 全体計画の実施や見直しに関する研修

「特別の教科 道徳」が小学校で全面実施され、中学校では来年度からという状況の中で、道徳教育の全体計画の実施や見直しの研修の状況について小学校と中学校を比較してみた。「行っていない」が小学校 15%、中学校 23%であった。中学校は「3～4 回行った」が小学校より多く 20%である。これも、中学校が来年度に向けての準備段階として取り組んでいることが分かる。

表 8

今年度、道徳教育の全体計画の実施や見直し等について研修はどの程度行いましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
行っていない	144 18%	79 15%	65 23%
1～2 回行った	485 61%	341 67%	144 51%
3～4 回行った	131 16%	75 15%	56 20%
5～9 回行った	24 3%	13 3%	11 4%
10 回以上行った	13 2%	5 1%	8 3%
合計	797	513	284

3. 年間指導計画について

(1) 年間指導計画に書いている内容の効果

年間指導計画に「基本的発問」を書いて効果的であるとしたのは全体的に 74%であった。小学校を見ると、昨年度は 56%、今年度は 78%で 20 ㊦上がっている。そのほかは、5 ㊦前後の増加である。ただ、「書いていない」学校が 2 割程度あるのは今後の課題である。板書計画」が昨年度の全体で 24%であったのが、今年度は 58%になっている。特に小学校で比較すると昨年度の 21%が 63%に伸びている。板書は授業全体を分かりやすく示すことができる。具体的に授業について検討されていると捉えられる。なお、事前指導や事後指導については書かれていない学校がそれぞれ 31%、24%と多い。

取り組んでいるところは効果的であると応えた学校が多く今後の課題である。また、「地域との連携」は昨年度とほぼ同じであるが、更に効果を上げる取組が求められる。「

表 9

年間指導計画に書かれていることがどの程度効果を上げていますか

	回 答											
	効果的である			あまり効果的ではない			見直しが必要である			書いていない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 基本的発問	718 74%	491 78%	227 66%	50 5%	27 4%	23 7%	32 3%	11 2%	21 6%	170 18%	98 16%	72 21%
2. 板書計画	563 58%	398 63%	165 48%	78 8%	41 7%	37 11%	34 4%	11 2%	23 7%	296 31%	178 28%	118 34%
3. 事前の指導に関すること	604 62%	413 66%	191 56%	88 9%	54 9%	34 10%	43 4%	19 3%	24 7%	235 24%	142 23%	93 27%
4. 事後の指導に関すること	619 64%	426 68%	193 56%	86 9%	50 8%	36 11%	42 4%	16 3%	26 8%	222 23%	135 22%	87 25%
5. 家庭との連携に関すること	515 53%	380 61%	135 40%	171 18%	104 17%	67 20%	78 8%	34 5%	44 13%	206 21%	110 18%	96 28%
6. 地域との連携に関すること	468 48%	345 55%	123 36%	189 20%	124 20%	65 19%	85 9%	37 6%	48 14%	228 24%	122 19%	106 31%
7. 各教科等との関連に関すること	641 66%	476 76%	165 48%	157 16%	75 12%	82 24%	84 9%	33 5%	51 15%	88 9%	43 7%	45 13%

## (2) 郷土教材や学校独自教材の活用

郷土教材や学校独自の教材を「入れていない」とする回答について、小学校で比較してみると、昨年度は29%、今年度32%であった。「1～2教材入れている」を見ると、昨年度54%、今年度51%であった。「入れていない」のは少し増えたが3割の学校が回答している。小学校で教科書が使用されるようになったが、郷土教材や学校独自の教材は、数は減っているが7割の学校で使用されている。

表 10

郷土教材や学校独自に開発した教材をどの程度入れていますか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
入れていない	283 29%	199 32%	84 24%
1～2教材入れている	473 48%	319 51%	154 44%
3～5教材入れている	171 18%	90 14%	81 23%
6～10教材入れている	35 4%	18 3%	17 5%
11教材以上入れている	17 2%	4 1%	13 4%
合計	979	630	349

## (3) 一定期間の道徳授業を振り返る授業の効果

昨年度の調査（全体）で、振り返りの時間を「設けている」は18%であったが、「来年度設けたい」としたのは28%であった。今年度、約半数の学校が振り返りの時間を設けて「効果的である」として

いる。

表 11

道徳の全体授業を振り返る時間を設けていますか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
効果的である	157 16%	98 16%	59 17%
ある程度効果的である	325 33%	223 35%	102 29%
あまり効果的ではない	19 2%	13 2%	6 2%
設けていない	479 49%	298 47%	181 52%
合計	980	632	348

(4) 重点的に指導した内容の効果

重点的に指導する内容については、68%が「効果的だった」としている。僅差であるが、小規模校ほど効果を感じている。

表 12

重点的に指導する内容項目について

	全体	200人 以下	201人 ～ 500人	501人 ～ 700人	701人 以上
計画的に取組み効果も感じられた	438 45%	106 47%	193 45%	81 42%	58 44%
計画的に取り組んだがあまり効果的ではなかった	218 22%	40 18%	97 23%	51 26%	30 23%
計画的には取り組めなかったが効果的だった	222 23%	55 24%	92 21%	44 23%	31 23%
計画的に取り組めなかったし効果も感じられなかった	107 11%	26 12%	50 12%	17 9%	14 11%

(5) 年間指導計画の見直し

今年度年間計画を見直したかどうかを小中学校で比較してみると、「見直さなかった」のは小学校が2割、中学校が3割であった。「3回以上見直した」のは、中学校の方が小学校の2倍に当たる13%であった。「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて年間指導計画の検討がなされていることがうかがえる。

表 13



今年度、どの程度年間指導計画の見直しを行いましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
見直さなかった	255 26%	144 23%	111 32%
1回見直した	504 52%	368 58%	136 39%
2回見直した	138 14%	81 13%	57 16%
3回以上見直した	82 8%	38 6%	44 13%
合計	979	631	348

#### 4. 道徳の授業について

##### (1) 学校全体で道徳授業に取り組める体制について

昨年度は、「学校全体で取り組む体制ができているか」の問いに95%が肯定的に回答していたので、さらに機能したかを問うたが、肯定的な回答が8割であった。「体制ができていない」との回答は小学校で1%、中学校で4%と、ほとんどの学校において、学校全体で体制を作って道徳の授業に取り組んでいることがうかがえる。

表 14

今年度、学校全体で道徳の授業に取り組もうとする体制は機能しましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
機能したと思う	298 30%	223 35%	75 22%
だいたい機能したと思う	488 50%	319 51%	169 49%
あまり機能しなかったと思う	116 12%	54 9%	62 18%
来年度見直したい	53 5%	27 4%	26 8%
体制ができていない	24 3%	9 1%	15 4%
合計	979	632	347

##### (2) 学校全体での道徳授業研修

学校全体での研修を「行っていない」のは、中学校が小学校の1.6倍あるが、全体では1割である。最も多いのは「1~3回行った」で小・中いずれも3分の2近くの66%であった。学期に1回あるいは夏休みに研修を行う学校が一般的かと推測される。昨年度の調査では、「行っていない」が、小学校(7%)、中学校(19%)、全体(11%)で、全体は今年度と大差ないが、中学校は小学校の2倍近くが行っていなかった。ちなみに、昨年度「10回以上行った」のは全体で5%(小6%、中3%)であった。

表 15

今年度、学校全体で道徳授業の研修をどの程度行いましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
行っていない	120 12%	64 10%	56 16%
1～3回行った	648 66%	418 66%	230 66%
4～6回行った	133 14%	88 14%	45 13%
7回以上行った	78 8%	61 10%	17 5%
合計	979	631	348

### (3) 道徳授業についての普段の話し合い

今年度の道徳授業の話し合いは、「よく行われている」「ときどき行われている」の合計が 74%（昨年度は 61%）で、13 ㊦も上昇している。特に、昨年比で、九州・沖縄が 68%から 20 ㊦、北海道が 47%から 18 ㊦と伸びが非常に大きい。道徳の授業について職員室でも話題になることが多くなっていると予測できる。

表 16

道徳授業の話し合いはどの程度行われていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
よく行われている	164 17%	96 15%	68 20%	24 11%	26 20%	17 10%	46 16%	21 16%	32 21%	23 18%	27 22%
ときどき行われている	558 57%	369 59%	189 54%	112 49%	84 64%	97 55%	168 59%	74 57%	82 55%	66 51%	82 66%
あまり行われていない	195 20%	131 21%	64 18%	65 29%	18 14%	44 25%	56 20%	27 21%	29 19%	29 22%	12 10%
ほとんど行われていない	61 6%	34 5%	27 8%	26 12%	3 2%	17 10%	15 5%	9 7%	7 5%	12 9%	4 3%
合計	978	630	348	227	131	175	285	131	150	130	125

### (4) 道徳授業の変化

全体にわたって、「ほとんど変わらない」としている学校は、3%程度である。全部の項目において「変わってきている」と感じている学校が半数以上である。子供たちへの対応も変わってきている（70.4%）し、「授業の評価」は 74%（昨年度 48%）が変わってきており、学校現場の努力がうかがえる。「あまり変わっていない」とする項目を見ると事後の指導、事前の指導が高く、47%と 44%である。小学校と中学校を比較すると、小学校の方が教材の多様性以外の項目はすべて高いし、大きな差も指摘できる。ここに挙げられている項目は、授業を充実させるためのポイントであり、さらに変化を実感できるように取り組む必要がある。特に中学校においては、「特別の教科 道徳」の全面実施を控えていっそうの対応が求められる。

表 17

年間指導計画に書かれていることがどの程度効果を上げていますか

	回 答											
	かなり変わってきている			だいぶ変わってきている			あまり変わっていない			ほとんど変わっていない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 低学年の道徳授業 (中学校では1年)	159 16%	104 17%	55 16%	556 57%	393 63%	163 47%	231 24%	122 20%	109 31%	29 3%	8 1%	21 6%
2. 中学年の道徳授業 (中学校では2年)	141 14%	99 16%	42 12%	554 57%	396 63%	158 45%	249 26%	126 20%	123 35%	32 3%	7 1%	25 7%
3. 高学年の道徳授業 (中学校では3年)	134 14%	93 15%	41 12%	545 56%	394 63%	151 43%	263 27%	130 21%	133 38%	33 3%	10 2%	23 7%
4. 事前の指導の工夫	90 9%	58 9%	32 9%	404 42%	274 44%	130 38%	429 44%	273 44%	156 45%	51 5%	23 4%	28 8%
5. 導入の工夫	140 14%	98 16%	42 12%	520 53%	350 56%	170 49%	291 30%	172 27%	119 34%	26 3%	9 1%	17 5%
6. 教材提示の工夫	139 14%	94 15%	45 13%	530 54%	366 58%	164 47%	278 29%	157 25%	121 35%	30 3%	12 2%	18 5%
7. 展開の工夫	178 18%	126 20%	52 15%	575 59%	393 63%	182 52%	204 21%	104 17%	100 29%	21 2%	6 1%	15 4%
8. 終末の工夫	145 15%	103 16%	42 12%	530 54%	365 58%	165 48%	273 28%	152 24%	121 35%	27 3%	9 1%	18 5%
9. 教材の多様性	121 12%	68 11%	53 15%	443 45%	295 47%	148 43%	369 38%	242 39%	127 37%	42 4%	22 4%	20 6%
10. 事後の指導の工夫	65 7%	50 8%	15 4%	402 41%	278 44%	124 36%	456 47%	276 44%	180 52%	50 5%	23 4%	27 8%
11. 板書の工夫	156 16%	120 19%	36 10%	480 49%	354 56%	126 36%	307 32%	147 23%	160 46%	33 3%	8 1%	25 7%
12. 子どもたちへの対応	145 15%	102 16%	43 12%	551 57%	380 61%	171 49%	253 26%	138 22%	115 33%	27 3%	8 1%	19 6%
13. 授業の評価	308 32%	248 40%	60 17%	424 44%	304 49%	120 35%	209 22%	73 12%	136 40%	29 3%	1 0%	28 8%

### (5) 道徳ノート、道徳ファイルの効果

道徳ノートが「効果的であった」としているのが 57%、道徳ファイルが「効果的であった」としているのは 63%であった。道徳ノートより、道徳ファイルの方がやや効果的という結果になった。これは、独自のプリントを使って授業をし、綴じさせていくという方法を用いている授業が多いからではないだろうか。ファイルさせるだけであると子供の成長を振り返りにくい。ノートだと思考の積み重ねや発展を自覚できる。両者を併用していく方法も考えられる。評価とも関わるので、継続的に書いていき、振り返ることもできるものを工夫したい。一方、「道徳ノートを持たせていない」のは、全体で 38%（中学校が 55%）である。昨年度は、38.3%であった。「道徳ファイルを持たせていない」のは、全体で 31%、昨年度は 30.5%であった。

表 18

道徳ノートは効果的でしたか

1. 道徳ノート	全体	校種別	
		小学校	中学校
大変効果的であった	146 15%	128 20%	18 5%
ある程度効果的であった	318 33%	230 37%	88 26%
少しは効果的であった	91 9%	60 10%	31 9%
改善を必要とする	42 4%	26 4%	16 5%
持たせていない	372 38%	182 29%	190 55%
合計	969	626	343

表 19

道徳ファイルは効果的でしたか

2. 道徳ファイル	全体	校種別	
		小学校	中学校
大変効果的であった	131 14%	97 16%	34 10%
ある程度効果的であった	345 36%	216 35%	129 37%
少しは効果的であった	127 13%	68 11%	59 17%
改善を必要とする	67 7%	27 4%	40 12%
持たせていない	301 31%	216 35%	85 25%
合計	971	624	347

(6) 道徳授業改革がどのようになされているか

現在提案されている「登場人物への自我関与が中心の授業」は93%（昨年は89%が効果的と回答）、「問題解決的な授業」は74%（昨年は93%が効果的と回答）で、どちらもよく行われている。問題解決的な授業はやりにくさがあるが、やろうとしていることがわかる。ただ、特活のような授業になりがちであるので、研修を積みながら効果的に道徳としてやろうとしているのではないか。それと同様に、「学級活動との関連を重視した授業」67%、「学級経営との関連を重視した授業」78%も高く、学級づくりの基盤になっていることが伺える。「日常生活との関連を重視した授業」も87%と非常に高い。これは、登場人物への自我関与や日常生活など、自分のこととして考えさせる授業が重視されているからだと推測される。「各教科との関連を重視した授業」は「それほど行っていない」が6割で、特に教科担任制である中学校は7割である。また、「総合的な学習の時間との関連を重視した授業」について「それほど行っていない」が5割となっている。探究的な課題追究の授業が求められているが、道徳の授業と響かせて問題（課題）追究的な道徳学習を展開することもできる。「道徳的行為に関する体験的な授業」も5割弱が「それほど行っていない」と答えている。この指導も「学級活動」や日常生活と響き合わせる方法などが求められる。家庭と連携した授業も今後の課題である。

表 20

次のような道徳の授業をどの程度行っていますか

	回 答								
	行っている			それほど行っていない			行っていない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 登場人物への自我関与が中心の授業	908 93%	604 96%	304 87%	59 6%	21 3%	38 11%	9 1%	2 0%	7 2%
2. 問題解決的な授業	725 74%	497 79%	228 65%	241 25%	126 20%	115 33%	12 1%	6 1%	6 2%
3. 道徳的行為に関する体験的な授業	508 52%	362 58%	146 42%	445 46%	257 41%	188 54%	24 3%	9 1%	15 4%
4. 各教科との関連を重視した授業	356 36%	288 46%	68 20%	588 60%	335 53%	253 73%	35 4%	7 1%	28 8%
5. 学級活動との関連を重視した授業	655 67%	436 69%	219 63%	314 32%	191 30%	123 35%	9 1%	3 1%	6 2%
6. 総合的な学習の時間との関連を重視した授業	476 49%	311 49%	165 47%	479 49%	311 49%	168 48%	24 3%	8 1%	16 5%
7. 学級経営との関連を重視した授業	761 78%	519 83%	242 70%	205 21%	105 17%	100 29%	11 1%	5 1%	6 2%
8. 日常生活との関連を重視した授業	855 87%	569 90%	286 82%	120 12%	60 10%	60 17%	4 0%	1 0%	3 1%
9. 家庭との関連を重視した授業	434 44%	332 53%	102 29%	509 52%	287 46%	222 64%	35 4%	10 2%	25 7%

(7) 多様な教材の活用

『私たちの道徳』については、教科書がなかった小学校において昨年度調査では95%が使用されていたが今年度は、「よく使った」と「まあまあ使った」をあわせて62%であった。中学校は昨年度も今年度もまだ教科書がない状態で、昨年度は85%、今年度は80%であった。小学校については、昨年度の「都道府県や市町村などの開発教材」が76%、「民間発行の副読本」が80%、「学校独自開発教材」が22%であった。今年度は、教科書に大きく移っていったが、今までの授業の蓄積も大事に活用していることがわかる。

表 21

今年度、道徳授業で次のものを学校全体としてどの程度使いましたか

	回 答											
	よく使った			まあまあ使った			ほとんど使っていない			そのようなものはない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 文部科学省発行の『私たちの道徳』	195 20%	157 25%	38 11%	471 48%	231 37%	240 69%	265 27%	200 32%	65 19%	50 5%	43 7%	7 2%
2. 都道府県や市町村などで開発された「道徳教材資料」	89 9%	44 7%	45 13%	505 51%	345 55%	160 46%	296 30%	187 30%	109 31%	92 9%	57 9%	35 10%
3. 民間が発行する副読本の教材	257 26%	105 17%	152 44%	265 27%	163 26%	102 29%	284 29%	230 36%	54 16%	175 18%	134 21%	41 12%
4. 学校が独自に開発した教材	39 4%	11 2%	28 8%	277 28%	119 19%	158 45%	229 23%	175 28%	54 16%	434 44%	326 52%	108 31%

## 5. 道徳教育に関する先生方の意識

### (1) 道徳教育に対する先生方の意識

道徳教育、教育の目標、教科、教科の目標、指導法については、理解しているが 9 割である。しかし、評価についての理解は「あまり思わない」が 25%である。道徳教育や道徳の授業に熱心な教師が多いかという問いに、「あまり思わない」「ほとんど思わない」が 3 割である。それに関連して、「道徳の授業を楽しんでいる教師が多い」では、5 割強が「思わない」という回答をしている。道徳ということであまり身構えないで子どもたちの意見を聞くことを楽しみながらやってみることを提案したい。

「道徳教育は自分自身のことであると思っている教師が多い」に対し 63%はそのように意識している。今後ますます教師の姿勢が問われることから、自分自身の道徳教育でもあるという認識から子どもたちと一緒に取り組んでいくという心構えが求められよう。

表 22

道徳教育に対する先生の理解度

	回 答											
	そう思う			だいたいそう思う			あまり思わない			ほとんど思わない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 道徳教育の大切さについて理解している	516 52%	350 55%	166 47%	430 44%	270 43%	160 46%	32 3%	11 2%	21 6%	6 1%	1 0%	5 1%
2. 道徳教育の目標について理解している	338 34%	243 38%	95 27%	532 54%	331 52%	201 57%	101 10%	54 9%	47 13%	13 1%	4 1%	9 3%
3. 「特別の教科 道徳」の大切さについて理解している	426 43%	302 48%	124 35%	473 48%	296 47%	177 50%	78 8%	33 5%	45 13%	7 1%	1 0%	6 2%
4. 「特別の教科 道徳」の目標について理解している	297 30%	219 35%	78 22%	544 55%	350 55%	194 55%	129 13%	60 10%	69 20%	14 1%	3 1%	11 3%
5. 「特別の教科 道徳」の指導方法について理解している	190 19%	134 21%	56 16%	606 62%	414 66%	192 55%	175 18%	82 13%	93 27%	12 1%	2 0%	10 3%
6. 「特別の教科 道徳」の評価について理解している	173 18%	129 20%	44 13%	561 57%	394 62%	167 48%	221 23%	101 16%	120 34%	28 3%	8 1%	20 6%
7. 道徳教育に熱心な教師が多い	176 18%	115 18%	61 17%	529 54%	368 58%	161 46%	260 26%	142 23%	118 34%	19 2%	7 1%	12 3%
8. 道徳の授業に熱心な教師が多い	173 18%	119 19%	54 15%	490 50%	350 56%	140 40%	296 30%	154 24%	142 41%	22 2%	8 1%	14 4%
9. 道徳教育は自分自身のことでもあると思っている教師が多い	152 16%	102 16%	50 14%	477 49%	325 52%	152 43%	326 33%	195 31%	131 37%	26 3%	8 1%	18 5%
10. 道徳の授業を楽しんでいる教師が多い	72 7%	41 7%	31 9%	395 40%	292 46%	103 29%	477 49%	285 45%	192 55%	39 4%	13 2%	26 7%

### (2) 教師から見た家庭や地域の人々への意識

教師から見た家庭や地域の人々の意識について「子どもの道徳教育に熱心な保護者が多い」では「そ

う思わない」という回答が 62%（特に中学校は 7 割を超える）あるが、これは昨年度 56%（小学校 53%、中学校 61%）と比べると若干低くなっている。家庭では、いろんな考えの保護者によって育てられているが、道徳教育は、みんなと仲良くやっていく、よりよい社会を築いていくということが根本にあるので、家庭でもしっかりやってほしいと期待したい気持ちが教師にはあるだろう。「地域の人たちの協力が得られている」や「保護者の協力が得られている」について 5～6 割である。更なる対応が求められる。そのためには、地域や保護者と情報交換を更に密にしていくことが考えられる。その際、子どもの道徳の評価（子供のよさや子どもの心の成長）を情報交換のツールとしてはどうだろうか。

表 23

先生から見て、家庭や地域の様子はいかがですか

	回 答					
	そう思う			そう思わない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 子どもの道徳教育について熱心な保護者が多い	375 38%	277 44%	98 28%	601 62%	352 56%	249 72%
2. 子どもの道徳教育について熱心な地域の人たちが多い	362 37%	276 44%	86 25%	613 63%	352 56%	261 75%
3. 地域の人たちの協力が得られている	526 54%	392 62%	134 38%	453 46%	237 38%	216 62%
4. 保護者の協力が得られている	590 60%	430 69%	160 46%	388 40%	198 32%	190 54%

### （3）教師の道徳教育に対する意識

道徳教育に関する教師の意識は、ほぼ昨年度と同様であった。特に高いのが「道徳の授業を積み重ねていけば子どもたちの道徳性は高められる」で 9 割を超えるのも昨年度同様であった。いじめの抑止に関しては、昨年度は 89%、今年度 85%が肯定的であった。回答者に注目して分析した結果、特に教頭（副校長）88%、教務主任（研究主任）89%と高い。道徳教育と体力との関連について 5 割以上が「そう思わない」と回答している。学力とは関連し、体力とは関連しにくいと考えがちであるが、よりよく生きるためには体を鍛え健康であることも重要である。道徳の授業を年間 40 時間するというのは否定的意見が圧倒的に多い。深まりのある 2 時間続きの授業などが柔軟に指導できるというメリットがあるが、学校現場では 35 時間をこなすだけで精一杯であるといった実態も想像できる。また教員養成の時点から道徳教育を充実した方がよいと 6 割が考えている。道徳の時間が「特別の教科 道徳」になったことを過半数の約 6 割が肯定的に捉えている。昨年と比較して 2%ほど増えている。推進教師と教務主任・研究主任とを比較すると 8割は教務主任・研究主任の方が高い。「特別の教科 道徳」の充実のためにも特に管理職及び道徳教育推進教師が「特別の教科 道徳」を肯定的に捉えられるような取組と成果が求められる。

表 24

道徳教育に対する先生の意見

	回 答									
	そう思う					そう思わない				
	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任
1. 道徳の授業を積み重ねていけば子どもたちの道徳性は高められる	884 91%	94 90%	168 89%	549 92%	73 86%	92 9%	10 10%	21 11%	49 8%	12 14%
2. 教師は自分の生き方を子どもたちにもっと話すべきだ	720 74%	83 80%	146 77%	433 72%	58 68%	256 26%	21 20%	43 23%	165 28%	27 32%
3. 道徳教育は他律的な道徳性の育成が根幹において自律的な道徳性をはぐくまれる	705 73%	72 70%	136 72%	436 74%	61 74%	260 27%	31 30%	53 28%	154 26%	22 27%
4. どのような子どもたちも学校に来ればしっかりと成長できる	619 64%	76 73%	126 67%	370 62%	47 56%	353 36%	28 27%	63 33%	225 38%	37 44%
5. 学力の育成は道徳教育を充実させることで高められる	687 71%	78 75%	136 72%	417 70%	56 67%	286 29%	26 25%	53 28%	179 30%	28 33%
6. 体力の育成は道徳教育を充実させることで高められる	444 46%	48 46%	88 47%	275 46%	33 39%	529 54%	56 54%	101 53%	321 54%	51 61%
7. いじめなどの子どもたちの問題行動は道徳教育を充実させることである程度改善される	829 85%	89 86%	167 88%	498 84%	75 89%	144 15%	15 14%	22 12%	98 16%	9 11%
8. 道徳教育を充実させることで家庭との連携が深まる	639 66%	73 70%	122 65%	382 64%	62 74%	334 34%	31 30%	67 35%	214 36%	22 26%
9. 道徳教育を充実させることで地域との連携が深まる	562 58%	73 70%	110 58%	329 55%	50 60%	411 42%	31 30%	79 42%	267 45%	34 41%
10. 「特別の教科 道徳」の授業時間を40時間くらいにするともっと多様な授業ができる	176 18%	19 18%	39 21%	104 17%	14 17%	799 82%	85 82%	150 79%	493 83%	71 84%
11. 教員養成において、もっと道徳教育の単位をとれるようにし充実を図るべきだ	580 60%	59 57%	109 58%	364 61%	48 57%	395 41%	45 43%	80 42%	233 39%	37 44%
12. 道徳の時間が「特別の教科 道徳」になったことに賛成である	565 58%	61 59%	117 62%	333 56%	54 64%	407 42%	42 41%	71 38%	263 44%	31 37%

(4) 道徳教育に対する要望

これからの道徳教育に対して、道徳教育や「特別の教科 道徳」の授業の進め方についての資料が欲しいという要望が高い。これらについては、次の自由記述の内容分析で細かく見ていきたい。

表 25

道徳教育に対する先生の要望

	回 答									
	そう思う					そう思わない				
	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任
1. 道徳教育を充実させるための特別予算がほしい	605 62%	65 63%	113 60%	371 62%	56 66%	369 38%	39 38%	76 40%	225 38%	29 34%
2. 道徳教育の指定校を多くしてほしい	258 26%	31 30%	44 23%	168 28%	15 18%	718 74%	73 70%	145 77%	430 72%	70 82%
3. 道徳教育の専門教師を加記してほしい	569 58%	48 46%	100 53%	374 63%	47 55%	406 42%	56 54%	89 47%	223 37%	38 45%
4. 道徳教育研修の機会を多くしてほしい	765 79%	74 71%	128 68%	497 83%	66 78%	210 22%	30 29%	60 32%	101 17%	19 22%
5. 文部科学省は道徳教育の進め方についてもう少し詳しい資料を発行してほしい	739 76%	67 64%	125 66%	480 80%	67 80%	236 24%	37 36%	64 34%	118 20%	17 20%
6. 文部科学省は「特別の教科 道徳」の授業の進め方についてもう少し詳しい資料を発行してほしい	766 79%	74 71%	133 70%	489 82%	70 83%	208 21%	30 29%	56 30%	108 18%	14 17%

6. 教科書を使った授業について（小学校のみ）

（1）授業のしやすさ

今年度、小学校において教科書が使用されたので、新たに「教科書を使った授業のしやすさ」の質問項目を設けた。肯定的な回答が71%であった。今までも副読本や文部科学省の『私たちの道徳』などを使用している学校も多くあったが、45%が「とてもしやすくなった」と答えている。

表 26

教科書の使用による道徳授業のしやすさ

	回 答							
	全体	大変 しやすくなったと 思う	だいぶ しやすくなったと 思う	まあまあ しやすくなったと 思う	あまり 変わらないと思う	少し しにくくなったと 思う	だいぶ しにくくなったと 思う	かなり しにくくなったと 思う
小学校	577 100%	67 12%	193 33%	147 26%	126 22%	35 6%	7 1%	2 0%

（2）教科書の活用状況

教科書の活用状況は、「そのまま活用した」のは「教材」や「ねらい」が多く、「主題配列」や「授業の進め方」、「重点指導」は5割以上「ある程度変えた」り「だいぶ変えた」りしている。これは、教科書の教材やねらいは教科書に従うが、指導の時期や、重点的に指導する内容や実際の授業展開においては、学校の実態や子どもの実態等によって柔軟に対応しているというように捉えられる。

表 27



教科書の活用状況

	回 答				
	全体	そのまま 活用した	少し変えた	ある程度 変えた	だいぶ 変えた
1. 主題配列（指導の順番が教科書通りであったかどうか）	632 100%	180 29%	291 46%	103 16%	58 9%
2. 教材	631 100%	407 65%	193 31%	27 4%	4 1%
3. ねらい	632 100%	354 56%	238 38%	31 5%	9 1%
4. 授業の進め方	632 100%	121 19%	352 56%	133 21%	26 4%
5. 重点的指導	632 100%	202 32%	330 52%	82 13%	18 3%

(3) 「特別の教科 道徳」の評価に時期について

新設の「特別の教科 道徳」であるが、評価の時期は「各学期」ごとに行っている学校が半数である。「特別の教科 道徳」が小学校で全面実施されて初めての年であり、教員間や保護者の理解をもとに慎重に進められている実態も想像できる。ただ、通知票を毎学期出している場合は、そこに「特別の教科 道徳」の評価も書くべきである。道徳の評価は、よりよく生きようとする心に関わって成長している一人一人の「よいところ」を見取り、勇気づける記述をするものであることから、学期ごとに評価することが求められる。

表 28

今年度の「特別の教科 道徳」を評価した時期

	回 答			
	全体	各学期ごとに 行った	年度末に まとめて行った	その他
小学校	579 100%	289 50%	245 42%	45 8%

7. 教師の道徳教育に対する意識の傾向性（因子分析による検討）

教師の道徳教育に対する意識(表 24)について、因子分析による検討を行った。回答している教員が 12 項目の意見についてどう思うか、主因子法による因子分析を行った。4因子構造が妥当であると考えられ、主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。明確な4つの因子が得られた。累積寄与率は、38.89 であった。

取り出した4因子について、次のように解釈された。

第1因子は、「道徳教育を充実させることで、地域との連携が深まる。家庭との連携が深まる」と考えていることから、「連携因子」とした。

第2因子は、「道徳教育を充実させれば、学校教育を高めたり育むことができる」と考えているため、「道徳教育有効性因子」とした。

第3因子は、「教員養成において、もっと道徳教育の単位をとれるようにして充実を図るべきだ」「道徳の時間が『特別の教科 道徳』になったことに賛成である」と考えていることから、「制度化充実因子」とした。

第4因子は、「道德教育を積み重ねていけば、道德性が高められる。いじめ行動が改善される」と考えていることから、「道德性向上因子」とした。

これら4つの因子が、教師の道德教育に対する意識の傾向性の背景にあることが明らかになった。

表 29

教員意識尺度の因子分析結果 (Promax 回転後の因子パターン)

	因子			
	I	II	III	IV
9. 道德教育を充実させることで、地域との連携が深まる	.871	.002	-.011	-.041
8. 道德教育を充実させることで、家庭との連携が深まる	.860	-.028	-.001	.059
6. 体力の育成は、道德教育を充実させることで高められる	.058	.724	.067	-.147
5. 学力の育成は、道德教育を充実させることで高められる	-.001	.617	.113	.043
4. どのような子どもたちも、学校に来ればしっかりと成長できる	-.028	.420	-.109	.105
3. 道德教育は、他律的な道德性の育成が根幹にあつて、自律的な道德性がはぐくまれる	-.057	.385	-.115	.202
2. 教師は、自分の生き方を子どもたちにもっと話すべきだ	-.021	.301	.017	.149
11. 教員養成において、もっと道德教育の単位をとれるようにし充実を図るべきだ	-.050	-.081	.734	-.017
12. 道德の時間が「特別の教科 道德」になったことに賛成である	.014	-.048	.502	.202
10. 「特別の教科 道德」の授業時数を 40 時間くらいにすると、もっと多様な授業ができる	.046	.084	.393	-.085
1. 道德の授業を積み重ねていけば、子どもたちの道德性は高められる	-.048	.099	-.004	.516
7. いじめなどの子どもたちの問題行動は、道德教育を充実させることである程度改善される	.127	.083	.026	.484

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 a

a 5 回の反復で回転が収束しました。